

2026 年 6 月 2 日

世界 LNG 動向#125 2026 年 5 月

一般財団法人日本エネルギー経済研究所
資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット
橋本 裕

はじめに

今号報告期間中での、アジアでの重要な LNG のコマーシャル面の動向としては、東京ガスが静岡ガスと初の長期 SPA (売買契約) を締結したこと。Kogas (韓国ガス公社)、2028 年から bp と 10 年間の供給契約を締結したことがあげられる。

オーストラリアは、政府が全国ベースでの国内ガス供給留保義務制度案を発表し、天然ガス政策の議論の観点で注目を集めた。2027 年 7 月より、LNG 輸出事業者は、国内市場に LNG 輸出量の 20% 相当の供給が求められるとしている。この動きは同国のエネルギー業界団体から反対を受けている。このような規制が投資を阻害し、信頼できるエネルギーの通商相手国としてのオーストラリアの評判を損なう可能性があるという警告している。一方で主要プロジェクトが開発コンセプト面で進展している。

北米では、業界は大きなモメンタムを示している。Cheniere Energy、Venture Global は LNG 輸出量を増加しており、各プロジェクトの拡張計画を進めている。Commonwealth LNG プロジェクトは FID を実現した。アラスカ州では Alaska LNG プロジェクトが North Slope の生産者と重要なガス供給契約を確保した。

中東は紛争の継続により、操業の中断が続いている。QatarEnergy は LNG 輸出のフォースマジュールを継続し、LNG 買主には痛手となっている。Ras Laffan 設備の特定の液化設備の損傷は、修繕に数年を要することが見込まれるが、関係企業はこの期間を短縮することを模索している。

東南アジアにおいて、引き続きインドネシアでの上流活動が目立っている。

日本は 2026 年 4 月、426.9 万トンの LNG を 100 万 Btu 当たり 10.77 米ドルで輸入した。前月 (3 月) は 586.9 万トン・10.85 米ドル、前年同月 (2025 年 4 月) は 537.4 万トン 11.59 米ドルと比べて減少した。日本は 2026 年 1 - 4 月に 2220 万トンの LNG を輸入し、中国の同期間の 1794 万トンを上回った。北東アジアの 4 市場は、2026 年 4 月に合計 1330 万トンの LNG を輸入し、同年 3 月の 1571 万トン、2025 年 4 月の 1592 万トンを下回った。4 市場の加重平均輸入価格は 11.59 ドルで、内訳としては日本 10.77、韓国 11.07、中国 10.57、台湾 15.92 米ドルだった。2026 年 4 月の日本の原油輸入平均価格は 1 バレルあたり 101.21 米ドルで、同年 3 月の 68.73 米ドルから上昇した。

[北東アジア LNG 輸入価格 - 月次・100 万 Btu 当たり米ドルで表示]

2026 年 / 月	日本	中国	韓国	台湾	加重平均
1 月	10.76	9.72	10.12	9.12	10.10
2 月	10.58	9.12	9.79	9.28	9.87
3 月	10.85	8.73	10.01	11.29	10.18
4 月	10.77	10.57	11.07	15.92	11.59

[アジア太平洋]

東京ガス株式会社と静岡ガス株式会社は、2026 年 5 月 8 日、LNG の売買契約を締結したことを発表した。東京ガスは静岡ガスに、2027 年から年間 5 カーゴの LNG を外航船で引き渡す予定。両社が中長期 LNG 売買契約を締結するのは今回が初めてである。

石油資源開発株式会社は、2026 年 5 月 13 日、代替調達による LNG 調達コスト増（スポット調達）156 億円を見込んでいることを明らかにした。

北海道ガス株式会社は、2026 年 5 月 18 日、商船三井テクノトレード株式会社と連携し、5 月 16 日、函館港に入港した「The Ritz-Carlton YACHT COLLECTION」が運航する国際クルーズ客船「LUMINARA（ルミナラ）号」に対し、Truck to Ship 方式 LNG 燃料供給を実施したことを発表した。外国籍のクルーズ客船への LNG バンカリングは、北海道内で初の事例となる。

日揮ホールディングス株式会社の海外 EPC 事業会社である日揮グローバル株式会社は、2026 年 5 月 26 日、オフショア分野における FLNG（浮体式 LNG 生産・貯蔵・積出）プラントの設計について、スタンダード・パッケージ（標準仕様）の開発を開始することを発表した。

2026 年 5 月 21 日の韓国での媒体報道によると、Kogas（韓国ガス公社）は bp と、2028 年から 10 年間、年間 700,000 トンの LNG を購入する取引を締結した。

韓国 HD 現代三湖（HSHI）は、2026 年 5 月 12 日、2 隻の LNG 輸送船舶の建造受注を報告した。「北米の船主」に 2029 年 7 月 23 日に引き渡す、としている。

BWLNG は、2026 年 5 月 14 日、HD 現代三湖（HSHI）に 2029 年第 2、3 四半期の引き渡しで追加 2 隻の LNG 輸送船舶建造を発注したことを発表した。2028 年第 4 四半期引き渡し予定 2 隻の 2025 年 11 月の発注に続くものとなる。これら船舶は業界初の大型 3 タンク設計によりカーゴ容量増加、ボイルオフ低減となるとしている。VCR（可変圧縮機構）付 XDF 2.2 推進方式、軸発電機、完全再液化システムを備えることとなるとしている。

韓国 KSOE (HD 韓国造船海洋) は、2026 年 5 月 14 日、傘下の現代重工 (HHI) が「オセアニアの海運企業」向け LNG 輸送船舶 2 隻の建造を同 13 日に受注したことを報告した。2029 年 3 月 30 日までに引き渡す。

韓国サムスン重工 (SHI) は、2026 年 5 月 14 日、「オセアニアの買主」向けに LNG 輸送船舶 2 隻建造を同 13 日に受注したことを報告した。2030 年 6 月 30 日までに引き渡すこととなる。SHI は、2026 年 5 月 18 日、「オセアニアの買主」用に LNG 輸送船舶 3 隻建造を同 15 日に受注したことを報告した。2029 年 5 月 31 日までに引き渡すこととなる。

中国 NBS (国家统计局) は、2026 年 5 月 18 日、ガス生産が 4 月は前年同月比 1.9% 増の 219 億 m³ (21.9 bcm)、1 - 4 月は前年同期比 2.7% 増の 900 億 m³ (90.0 bcm) となった、と述べた。LNG 輸入量は、4 月が 355 万トン、前年同月比 22.9% 減、1 - 4 月累計が 1794 万トン、前年同期比 10.3% 減となった。NDRC (中華人民共和国国家发展和改革委员会) の 2026 年 5 月 27 日の発表によれば、4 月の中国の天然ガス消費量は 336.9 億 m³ (33.69 bcm)、前年同月比 3% 減であった。同 1 - 4 月の中国の天然ガス消費量は 1372 億 m³ (137.2 bcm)、前年同期比 2.3% 減であった。

Sinopec (中国石油化工集团有限公司) は、2026 年 4 月 30 日、Sinopec Clean Energy (中石化 (北京) 清洁能源有限公司) が、12,000 m³ LNG バンカリング船舶 1 隻を、Nantong CIMC Sinopacific Offshore & Engineering (南通中集太平洋海洋工程有限公司) に発注したことを発表した。

CNOOC (中海石油气电集团有限责任公司) は、2026 年 4 月 29 日、SHPGX (上海石油天然气交易中心) によれば、SHPGX を通じて LNG 気化ガスの販売オークションを行った。引き渡し地点は Zhuhai LNG (珠海金湾) 基地で、引き渡しは 5 月 1 - 7 日となった。SHPGX は、5 月 11 日、CNOOC が SHPGX で 2 件の LNG オークションを実施したことを発表した。引き渡しは PipeChina (国网) 天津 LNG 基地、北燃天津 LNG 基地に設定された。

中国の China Merchants Heavy Industry (Jiangsu) Co., Ltd. (招商局重工 (江苏) 有限公司) は、2026 年 4 月 26 日、自国最大の自主設計・建造のカーゴ容量 180,000 m³ の LNG 輸送船舶 Celsius Georgetown の引き渡しを行った。

Wärtsilä 社は、2026 年 5 月 4 日、Wärtsilä Gas Solutions が中国の Nantong CIMC Sinopacific Offshore & Engineering (南通中集太平洋海洋工程有限公司) 造船所で建造中の新規 LNG バンカリング船舶 4 隻に、カーゴ・ハンドリング、燃料ガス供給システムを納入することを発表した。これら 4 隻は GSX Energy により発注された。Wärtsilä

はまたこれらシステムの設計・エンジニアリングも行う。

台湾經濟部は、2026 年 5 月 6 日、域内の石油・ガス供給は安定しており「8-9 月まで問題ない」と述べた。

ベトナムの PetroVietnam Gas (PV Gas) 社は、2026 年 5 月 19 日、同月 24 日までの引き渡しで 20 日を応札期限とする DES(持ち届け ex-ship) 条件でのスポット LNG 購入の入札を発行した。PV Gas は、5 月 25 日、DES 条件の 1 カーゴの入札を同 26 日期限内で発行した。

ベトナムのゲアン省当局は、2026 年 5 月 18 日、Quynh Lap LNG 火力発電プロジェクトの建設開始を発表した。コンバインドサイクルガスタービン 2 基により 1.5 GW の発電設備で、2030 年稼働開始を目標としており、PetroVietnam ・韓国 SK Innovation が主導している。

タイ PTT 社は、2026 年 5 月 26 日、ブルネイ Brunei LNG と、長期 LNG SPA(売買契約) を、両社間の 2 本目の長期取引として締結したことを発表した。

韓国サムスン重工業 (SHI) は、2026 年 5 月 4 日、アジアの船主向けに LNG FSRU(浮体貯蔵・気化設備) を建造する 4850 億韓国ウォン (3.29 億米ドル) 相当の契約を受注したことを報告した。同船舶は 2029 年 2 月 15 日までに引き渡す予定としている。

GTT は、2026 年 5 月 12 日、同年第 2 四半期に、マレーシア MISC を代行しての造船企業サムスン重工業 (SHI) より新規 FSRU(浮体貯蔵・気化設備) 向けのタンク設計を受注したことを発表した。GTT は当該船舶の総容量 170,000 m³ となる複数の超低温タンクを設計する。これらのタンクは GTT の Mark III メンブレンコンテインメントシステムに適合される。この新 FSRU はマレーシアの西岸ペラク州 Lumut に配置されることとなる。引き渡しは 2029 年第 1 四半期に見込まれる。

マレーシア MISC 社は、2026 年 5 月 4 日、PETRONAS Gas 社 (PGB) から、新造 FSRU(浮体貯蔵・気化設備) 提供・オペレーション・メンテナンスの長期業務に関する発注意向書 (LOA) を同 4 月 30 日に受領・受諾したことを発表した。この LOA は、当該 FSRU に関する本契約への基本を形成する主要諸条件を規定している。並行して MISC は、同プロジェクト向け新造 FSRU 1 隻建造の造船契約をサムスン重工業 (SHI) と締結している。同プロジェクトは確定期間 20 年間で、2029 年開始が見込まれる。同プロジェクトは MISC にとって FSRU 部門への初参入となる。

マレーシア PETRONAS 社は、2026 年 5 月 12 日、PETRONAS LNG 社 (PLL) が MISC 社と 174,000 m³ の LNG 輸送船舶 5 隻の 20 年間の定期備船契約を締結したことを発表した。2026 年 1 月、2 月に MISC と中国の沪东中华造船 (集团) 有限公司との

間で造船契約が締結されていた。これら船舶は上海で建造され、備船開始は 2029 年から 2030 年に見込まれている。これらの船舶は、進化する環境および運用基準に沿った最新かつ効率重視の技術を織り込む。これには最新の XDF2.1 推進技術、航海中の燃料効率を高めるシャフトジェネレーター、ボイルオフを効果的に管理する船上再液化設備が含まれる。MISC は造船段階を通じてプロジェクト管理サービスを提供し、その後 2029 年開始の船舶の運用開始および船舶管理を行うこととなる。

マレーシア Gas Malaysia 社は、2026 年 5 月 15 日、ケダ州 Yan の LNG 気化基地プロジェクト関連で、東京ガス株式会社、VTTI 社と共同開発契約を締結したことを発表した。

イタリア Eni 社は、2026 年 5 月 7 日、Geliga-1 井で発見された資源の試験が行われたと発表した。Geliga-1 井は、ガス日量 0.2 bcf、コンデンセート日量 10,000 バレルを持続的に生産できると推定される。Geliga-1 は、インドネシア東カリマンタン 70 km 沖合の Kutei 盆地内 Ganal 鉱区に位置する。試験結果により、ガス 5 Tcf、コンデンセート 3 億バレルの原始資源量という初期評価が裏付けられた。この新発見資源は、未開発の Gula ガス資源の隣に位置し、Gula の原始資源量はガス 2 Tcf、コンデンセート 7500 万バレルと推定される。初期評価では、Geliga と Gula は、ガス日量 1 bcf、コンデンセート日量 80,000 バレルの追加生産を支える可能性があるとされる。開発計画 (POD) は、今後数週間以内にインドネシア政府に提出される予定である。POD は、Gendalo / Gandang ガスプロジェクト (South Hub) と Geng North / Gehem ガス田 (North Hub) に加えて、豊富な Kutei 盆地で第 3 の生産ハブを迅速に開発することを可能にすることを目的とする。並行して、North Hub POD に既に含まれているものを超えて Bontang 設備の液化容量を評価するスタディが進行中であり、現在稼働していない最大 2 本の LNG 系列を再稼働させる可能性がある。Geliga-1 発見資源は、Eni が 82%を持ちオペレーションを担当、Sinopec (中国石化) が 18%を保有する Ganal PSC にある。Ganal PSC は、2025 年 11 月に発表された Eni と PETRONAS の共同傘下会社 Searah に移管される 19 鉱区 (インドネシアで 14、マレーシアで 5) のポートフォリオに含まれている。

Eni は、2026 年 5 月 21 日、South Hub、North Hub ガスプロジェクトの LNG 売主と、インドネシアにおける LNG 購入のため、3 本の長期契約を締結したことを発表した。両プロジェクトで Eni は操業を担当しており、平均 80%以上の重要な参加権を持つ。これら契約は、Kutei 盆地での Eni が操業を担当するガス開発プロジェクトから来る LNG 数量を対象としており、合計年間 200 万トンとなる。LNG は、東カリマン

タン既存 Bontang LNG 設備を通じて供給されることとなる。

bp 社は、2026 年 5 月 20 日、インドネシアでパートナー企業とともに、生産分与契約 (PSC) を締結し、同国における鉦区参加件数を 11 としたことを発表した。2 件は、パプア州の既存で bp が操業する Tangguh LNG 近くの Bintuni、Drawa 探査鉦区のものである。bp は東ジャワの INPEX が操業する Barong 鉦区への参加も確認した。これらの鉦区は、インドネシアのエネルギー・鉦物資源省が実施した 2025 年第 2 回公開入札ラウンドの一環である。Bintuni・Drawa 鉦区での bp のパートナーは、CNOOC Southeast Asia 社、MI Berau B.V. (INPEX・三菱商事の合弁事業)、Indonesia Natural Gas Resources Muturi 社 (エルエヌジージャパン社子会社) である。

株式会社 INPEX は、2026 年 5 月 20 日、株式会社 INPEX マセラが Abadi LNG プロジェクトからの LNG 引き取りに関して、bp、PT PLN Energi Primer Indonesia、PT Perusahaan Gas Negara (Persero) TBK、Shell Eastern Trading (Pte) Ltd と基本合意に至ったことを発表した。本プロジェクトからのパイプラインガス供給に関して、PT Pupuk Indonesia (Persero) とも基本合意に至った。

株式会社 INPEX は、2026 年 5 月 21 日、インドネシアのエネルギー・鉦物資源省が実施した 2025 年第 2 回公開入札ラウンドにて、東ジャワ沖合海域に位置する Barong 探査鉦区を共同入札パートナーとともに落札し、株式会社 INPEX バロン (51%)・パートナー BP Barong Limited (49%) が、同国石油ガス上流事業監督官庁 SKK MIGAS と生産分与契約 (Production Sharing Contract: PSC) を締結したことを発表した。

パキスタン Pakistan LNG (PLL) 社は、2026 年 5 月 6 日、Port Qasim 基地への 5 月 12 - 14 日、24 - 26 日の引き渡しの 2 カargo 入札を発行したが、同 11 日にキャンセルした。4 月には、PLL は 4 月 24 日に締め切られた入札で、招請された 3 カargo 中の 1 件を 4 月 27 - 30 日分で TotalEnergies に落札とした。これは 2023 年 12 月以来の PLL スポット LNG 入札だった。

バングラデシュ Petrobangla 子会社 RPGCL は、2026 年 5 月 4 日、3 カargo DES (持ち届け ex-ship) 入札を発行した。引き渡しは Moheshkhali 基地、6 月 8 - 9 日、9 - 10 日、14 - 15 日のスロットとなる。応札期限は 5 月 7 日とした。RPGCL は、5 月 17 日、6 月 15 - 16 日、21 - 22 日、24 - 25 日、Moheshkhali 基地向けを対象として、LNG DES (持ち届け ex-ship) 3 カargo 供給招請を発行した。応札期限は 5 月 19 日とした。

オーストラリアと日本の首相は、2026 年 5 月 4 日、経済安全保障協力に関する共同宣言に署名した。

オーストラリア政府は 2026 年 5 月 7 日、国内ガス留保義務制度案を発表した。この

制度では、ガス輸出企業は 2027 年 7 月 1 日から総生産量の一定割合（輸出量の 20%に相当）をオーストラリア市場に供給することが義務付けられる。この発表によると、国内留保制度は、2025 年 12 月 22 日の政府発表前に締結された輸出契約を尊重し、輸出業者が輸出義務を完全に履行し続けることを確保するとしている。

オーストラリア・ニュージーランドのエネルギー・気候変動閣僚会議 (ECMC) 2026 年 5 月 8 日（金）会合のコミュニケは、7 日に発表されたオーストラリア国内ガス留保義務制度案を、*東部国内ガス留保義務*と描写したが、当該留保義務制度案を発表した記者会見は「国内全体を対象とし例外はない」と示唆している。

Australian Energy Producers (AEP = オーストラリア・エネルギー生産者協会) は、2026 年 5 月 7 日、連邦政府が LNG 輸出企業に対し輸出量の 20%を国内市場に供給することを義務付ける提案は、競争、投資、将来のガス供給に及ぼす潜在的な影響について懸念を引き起こしていると述べた。この声明によると、クイーンズランド州の LNG 輸出業者に輸出量の 20%を東部市場に供給することを強制すれば、小規模な国内生産者が締め出され、競争が弱まり、将来の供給に影響が出るという。この声明によると、東海岸市場は現在供給が十分で、価格もここ数年で最低水準にあり、オーストラリアのガス需要家は世界的なエネルギー危機の影響を受けていないため、このような強硬な介入は正当化されない。この声明によると、今回の発表は投資を冷え込ませ、オーストラリアのエネルギー安全保障に長期的な影響を与える恐れがある。この声明によると、今回の発表は、LNG 輸出が地域エネルギー安全保障にとって極めて重要な時期に、オーストラリアの信頼できる通商相手国としての評判を損なう恐れもあるという。

Australian Energy Producers (AEP = オーストラリア・エネルギー生産者協会) は、2026 年 5 月 7 日、連邦議会上院のガス資源課税特別委員会が、石油・ガス産業への増税要求を多数決で否決したことを歓迎すると述べた。

オーストラリア政府は、2026 年 5 月 15 日、2026 年第 3 四半期について、自国東部市場に十分なガスがあることを業界および専門家から確認を受け、オーストラリア国内ガスセキュリティメカニズム (ADGSM) に基づくガス市場の輸出コントロールを実施せず、それ以上の措置を実施することは不必要になる、と発表した。

オーストラリア政府は、2025 年 5 月 25 日、2027 年 7 月 1 日開始予定の国内ガス留保義務制度案に関するコンサルテーションプロセスを開始した。2026 年 3 月 13 日に終了したパブリックコンサルテーションの後、初期の留保義務制度設計に対するステイクホルダーのフィードバックを受け、デザインフレームワークが作成された。関心のあるステイクホルダーは、2026 年 6 月 30 日オーストラリア東部時間 11:30 pm までにフ

ードバックを提出することを招請されている。DSO (国内供給義務) を含む最終的な政策設定は、コンサルテーション後に法制化を通じて政府により決定されることとなる。

オーストラリアのニューサウスウェールズ州 (NSW) 政府は、2026 年 5 月 15 日、自州初の垂直統合の水素・アンモニア生産設備モーリー近くの Good Earth Green Hydrogen and Ammonia (GEGHA) プロジェクトの建設が開始されたと発表した。同設備は年間 4,500 トンの低カーボンアンモニアを生産する。また年間 200 トン以上のグリーン水素を生産する。GEGHA はニュージーランド Hiringa Energy、モーリーの Sundown Pastoral 社が主導しており、2027 年稼働開始見込み。

サウスオーストラリア州政府は、2026 年 5 月 14 日、South East 地域の水圧破碎モラトリウムを廃する法案を導入することを発表した。

オーストラリア Equus Energy 社は、2026 年 5 月 13 日、Equus Gas プロジェクトのプレ FEED (予備的基本設計) の結果を発表した。同プロジェクトは、既存 North West Shelf インフラストラクチャ・余剰ガス処理容量を、LNG 輸出市場・ウエスタンオーストラリア州内ガス市場の両方にアクセスするため活用する意図である。このプレ FEED スタディは、2 つのタイバック開発コンセプトを検討した。Equus to Pluto Development タイバックは、Woodside が操業する Pluto 沖合インフラストラクチャへのタイバックにより Pluto LNG 第 1 系列および Pluto-KGP インターコネクターを通じての Karratha Gas Plant (KGP) への接続、Dampier to Bunbury Natural Gas Pipeline (DBNGP) を通じての州内ガス市場へのタイバックである。Equus to Varanus Island Development タイバックは、Santos が操業する沖合インフラストラクチャ・Varanus Island ガス設備での処理さらに既存 North West Shelf インフラストラクチャによる LNG 市場・DBNGP を通じての州内市場へのアクセスである。Equus Gas プロジェクトは総生産容量日量~0.35 bcf (日量~350 TJ) を持つ見込み。同プロジェクトはスタートアップ時点で最大 5 本の生産井、集中 FPSO 向けに供給する改定生産システム、上流処理・タンカー直接引き取り方式のコンデンセート安定化、新規の Pluto または Varanus Island インフラストラクチャへの新設沖合パイプラインでの託送契約方式でのドライガス搬出の当初開発を含む見込み。コンセプトは、州内市場向けガス日量~50 TJ (現在のウエスタンオーストラリア州需要の~5%)、LNG 年間 200 万トン、コンデンセート日量~12,000 バレルの生産、既存の証明済み資源に基づき 15 年間のプロジェクト寿命で設計されている。

オーストラリア Woodside Energy 社は、2026 年 5 月 11 日、Browse to North West Shelf (NWS) プロジェクトが長期的に国内総生産の 1410 億豪ドル以上の増加、石油類

資源レント税 (PRRT) 198 億豪ドル含む税収 560 億豪ドル以上の増加などの長期的な増幅効果をもたらすと試算する Deloitte Access Economics による経済影響評価を公表した。同プロジェクトは、総生産容量 (LNG、LPG、コンデンセート) 年間 1140 万トン、ピークのコンデンセート生産日量 50,000 バレルを見込んでいる。カーボンキャプチャーストリージ (CCS) もプロジェクト設計に織り込まれており、同プロジェクトの 2019 年時点のスコープ 1 排出量試算比で CO₂ 換算 5300 万トンの温室効果ガス (GHG) 排出削減を可能とすることが期待されている。同プロジェクトは現在、コンセプト定義の段階にある。

株式会社 INPEX は、2026 年 5 月 15 日、INPEX Mirai Upstream 社を通じて、PetroChina International Investment (Australia) Pty Ltd (CNPC) が保有する Browse Joint Venture の 10.67%を取得するための権益譲渡契約を CNPC 社と締結したことを発表した。Brecknock、Calliance、Torosa ガス田を含む Browse 鉦区群の開発を進めるとしている。

オーストラリア Offshore Alliance (OA) 労働組合は、2026 年 5 月 15 日、OA ・ ETU (Electrical Trades Union) 組合の弁護士が、同国のエンジニアリング・メンテナンス請負会社 UGL に、Woodside の KGP/Pluto 設備にて、保護された争議行為が同 20 日に開始されることを同 12 日に公式に通知した、と述べた。

オーストラリア Offshore Alliance (OA) 労働組合は、2026 年 5 月 26 日、労使交渉進展により、Ichthys LNG 設備で同 27 日、28 日に計画されていたストライキは停止された、と述べた。

オーストラリア Santos 社は、2026 年 5 月 26 日、自社の一等資産のひとつである Barossa は稼働しており、計画されている 2026 年の生産量の 75%にあり、2026 年半ばに定常生産を目指している、と述べた。

オーストラリア Santos 社は、2026 年 5 月 12 日、パプアニューギニア Agogo Production Facility (APF) タイイン (つなぎ込み) のプロジェクトについて、PNG LNG 合弁事業の承認を受けて、推進する FID (最終投資決定) を発表した。APF タイインプロジェクトは、Santos が操業する Agogo 生産設備からのガスを PNG LNG ガスパイプラインへと、新規 19-km パイプラインで接続するとともに、新規 2 本の生産井、随伴する生産設備の改修を伴うものである。ガス生産開始は 2028 年第 2 四半期を目標としており、追加生産容量は 日量 0.135 bcf である。Santos は PNG LNG 合弁事業の 39.9%持分を有する。同合弁事業のパートナーは ExxonMobil PNG 社、ENEOS Xplora、Kumul Petroleum、Mineral Resources Development 社となっている。(2026/05/12)

[北米]

Cheniere Energy 社の 2026 年 5 月 7 日の同年第 1 四半期業績報告会によれば、1 - 3 月に輸出した 187 カargo は、2025 年第 4 四半期の過去最高をさらに上回った。

Cheniere Energy Partners 社は、2026 年 5 月 28 日、子会社 Sabine Pass Liquefaction Stage V (SPLV) 社が、Bechtel Energy 社との間で、SPL 拡張プロジェクトのフェーズ 1 の一括請負引き渡し方式の EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約を締結したことを発表した。SPLV は Bechtel に対して、限定推進通知 (LNTP) の下でフェーズ 1 の初期エンジニアリング・調達を開始することを認めた。SPL 拡張プロジェクトは、デボトルネッキング機会・関連インフラストラクチャも含めて、最大年間 2000 万トンのピーク生産容量・最大 3 本の大型液化系列で開発されている。SPL 拡張プロジェクトは、段階型で実施されている。Bechtel とのフェーズ 1 EPC 契約は、第 7 系列 1 本、ボイルオフガス再液化設備、関連インフラストラクチャを含んでいる。フェーズ 1 は、デボトルネッキング含め、LNG 年間 600 万トンを超える生産容量を持つ見込み。フェーズ 1 は、コマーシャル面について長期契約で裏付けられている。フェーズ 1 の FID (最終投資決定) は、必要な規制機関承認、ファイナンス手配が条件になる。SPL 拡張プロジェクトの立地、建設、操業の承認に関する FERC (連邦エネルギー規制委員会) 申請、非自由貿易協定 (非 FTA) 諸国向け LNG 輸出承認への DOE (米エネルギー省) 申請は依然審査中である。Cheniere Partners はフェーズ 1 の FID には 2027 年初までに到達することを見込んでいる。

Cheniere Energy 社の 2026 年 5 月 7 日の同年第 1 四半期業績報告会によれば、CCL ステージ 3 プロジェクトは 97% 完了している。第 5 系列は 3 月に実質的完成、第 6・第 7 系列はそれぞれ夏と秋に実質的な完成の見込み、いずれも 2025 年 10 月に発表された 2026 年の生産予測よりも数週間早く進んでいる。第 6 系列の LNG 初生産は数日中に見込まれる。ミッドスケール第 8・9 系列・ボトルネック解消プロジェクトは 37% 完了している。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2026 年 5 月 5 日、テキサス州での Corpus Christi Liquefaction ステージ 4・関連パイプライン拡張プロジェクトの環境影響評価書 (EIS) 今後の発行に関わる公式通知を発出した。この拡張は 4 本の新規液化系列、追加複数の貯蔵タンク、原料天然ガス引き渡し容量拡張のための 26 マイル (42 km) パイプライン複線の建設を含む。本通知は規制上の日程も規定するもので、最終判断期限を 2027 年 6 月 10 日としている。

Sempra 社の 2026 年 5 月 7 日の 2026 年第 1 四半期業績説明会によると、Sempra Infrastructure の一部売却に関して、2026 年第 2 四半期または第 3 四半期完了に向けて順調に進んでいる。Sempra は、FERC (連邦エネルギー規制委員会) の承認、韓国の競争法上の承認、メキシコの独占禁止法上の承認、および第三者機関の同意の大部分を取得済みである。Sempra は現在、Cameron プロジェクトのパートナー企業および Cameron プロジェクトに資金を提供している日本の輸出信用機関と協力し、同意を得るための手続きを進めているとのこと。

Port Arthur LNG 社は、2026 年 5 月 5 日、累積ベースで 20 Bcf (416 千トン) の輸入された外国産 LNG を輸出する包括許可を DOE/HGEO (米エネルギー省炭化水素・地熱エネルギー局) に申請した。Port Arthur LNG は可能な限り早期、2026 年 10 月 1 日以前より開始で 2 年間の承認を申請している。

Venture Global 社の 2026 年 5 月 12 日の同年第 1 四半期業績報告会によると、CP2 フェーズ 2 の FID (最終投資決定) により、VG は 2027 年末までに北米最大の LNG 生産企業となる見込みで、2030 年までに年間生産 1 億トン超を目指す見込みである。

Venture Global 社の 2026 年 5 月 12 日の報告によると、VG は 2026 年の自社設備合計での総カーゴ数を 494 - 523 と見込んでいる。

Venture Global 社は、2026 年 5 月 12 日、TotalEnergies、Vitol とそれぞれ、Venture Global からの LNG 追加購入について拘束力ある合意を締結したことを発表した。Venture Global は、TotalEnergies と、Venture Global から 2026 年開始で約 5 年間、年間 85 万トンの LNG 購入について新規の拘束力ある合意を発表した。Venture Global ・ Vitol は、既存の 5 年間の拘束力ある LNG 合意について、2026 年 3 月に合意・発表していた年間 150 万トンから 170 万トンに増量することに合意した。両合意ともに、Venture Global のポートフォリオから供給されることとなる。

Venture Global 社の 2026 年 5 月 12 日の報告によると、同社は Plaquemines プロジェクトのフェーズ I について、COD (コマーシャル稼働開始期日) に向けて、建設、コミッショニング、保証試験を進めている。Plaquemines フェーズ I COD を 2026 年第 4 四半期、フェーズ II COD は 2027 年半ばを目標としている。

Venture Global 社の 2026 年 5 月 12 日の報告によると、CP2 プロジェクト建設は進展しており、引き続き 2027 年後半 LNG 生産開始の予定であり、LNG 産業史上どの大型プロジェクトよりも、FID (最終投資決定) からの期間は大幅に速い。4 基の LNG 貯蔵タンク中 2 基の屋根を挙げ、施設を守る周囲の防水壁は完了、36 基の LNG 液化系列中 12 基が基礎の上に設置されている。

Venture Global 社の 2026 年 5 月 12 日の同年第 1 四半期業績報告会によると、Permian ガスは特に窒素含有量が高く、液化設備・LNG 輸送船舶によくない。これに対応するため VG は大規模窒素除去設備を設計・構成・建造し、これらは CP2 現場に到着するところである。

Venture Global 社の 2026 年 5 月 12 日の同年第 1 四半期業績報告会によると、VG は長期・中期契約で年間 5200 万トン分以上を有する。VG の 2026 年分の契約しているポジションは、3 月の 2025 年第 4 四半期業績報告会で報告したポートフォリオ中の 69%から 84%まで増加している VG の長期・中期契約で年間 5200 万トン分のポートフォリオは現在の公称設計容量を超えているが、2029 年末までに稼働開始を見込んでいる年間 8500 万トンに対して 60%超程度に過ぎず、さらに中期・長期契約活動を進める機会となる。VG は今後数年間について、2 件のボルトオン（上乘せ型）拡張を加え、コミッションングカーゴを含まずに、契約できる利用可能な容量年間 3300 万トン超を有する。VG はこの容量の大部分について、新規プロジェクトファイナンスを支える長期契約、収益・柔軟性を最適化するための中期契約の混合で今後数年間に契約していくとしている。

Venture Global 社の 2026 年 5 月 12 日の同年第 1 四半期業績報告会によると、VG は付加価値を高められるボルトオン（上乘せ型）拡張を開発しており、従来の LNG プロジェクトに比べて遥かに短期間で稼働できると考えている。VG は短期開発計画を更新しつつあり、CP2 拡張計画は 12 系列（8 系列計画から拡張）、年間 1000 万トンとして含まれる。Plaquemines 拡張ボルトオン計画は、年間 640 万トンで変更はなく、市場環境に応じて追加系列余地を残すとしている。VG は両設備とも許可承認を迅速にするよう規制機関と検討を進めており、コマーシャル面では契約の話し合いを交渉している。VG は要長期間項目の発注を開始しており、CP2 拡張は 2027 年初、Plaquemines 拡張は 2027 年半ばの推進決定を目指している。

ExxonMobil 社の 2026 年 5 月 1 日の同年第 1 四半期業績報告会によれば、Golden Pass LNG プロジェクトは第 1 系列が稼働して出荷も行っている。第 2 系列は 2026 年末まで、第 3 系列は 2027 年第 2 四半期までに機械的な完成を見込んでいるとのこと。

NextDecade 社の 2026 年 5 月 1 日・同年第 1 四半期業績報告会によると、同社は引き続き Rio Grande LNG 設備への原料ガス導入を 2026 年後半、第 1 系列からの LNG 生産開始を 2027 年前半に期待している。2026 年 4 月初旬、FERC（連邦エネルギー規制委員会）は現場での 24/7 建設スケジュールへのシフト申請を承認した。これは EPC（エンジニアリング・調達・建設）契約に織り込まれた移行で、EPC あるいはプロジェ

クト総コストを増額することはない。同プロジェクトは現在、早期数量やキャッシュフローガイダンスに反映されているスケジュールよりも先行して進行しており、各系列のコミショニング・スタートアップ期間中の予期せぬ事象があっても生産ガイダンスを実現できるバッファーとなる。2026 年 3 月時点で第 1・2 系列 67.8%、第 3 系列 44.2%、第 4 系列 10.6%、第 5 系列 6.8%完成となっている。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2026 年 5 月 26 日、Rio Grande LNG 社に対して、Rio Grande LNG 設備の建設完了・業務に供する期間を 2031 年 11 月 22 日まで 3 年間延長する 2026 年 4 月 24 日付申請を承認する書簡を発行した。

NextDecade 社の 2026 年 5 月 1 日・同年第 1 四半期業績報告会によると、Bechtel 社が第 6 系列・第 3 棧橋の FEED (基本設計) スタディを実施中である。NextDecade は第 6 系列の FERC (連邦エネルギー規制委員会) 申請提出を第 2 四半期末よりも早くに見込んでいる。同社は第 6 系列の初期販売活動を行っている。同社は第 6 系列プロジェクトが早ければ 2027 年半ばに FERC 許可を受け、同時にそのタイムフレーム内に十分な販売と資金調達が行えれば、同年後半に FID (最終投資決定) 準備が整うと考える。2027 年後半 FID ならば早ければ 2032 年に第 6 系列を稼働できると期待する。

Rio Grande LNG Train 6 (RGLNG Train 6) 社は、2026 年 5 月 26 日、テキサス州キャメロン郡ブラウنزヴィル水路 (BSC) で過去から承認済みの Rio Grande LNG 設備の拡張について、立地・建設・操業の許可を FERC に申請した。RGLNG Train 6 は、新規液化系列 1 本 (Train 6)、新規棧橋 1 本 (Berth 3)、随伴諸設備の立地・建設・操業を提案している。RGLNG Train 6 はこの申請を迅速な手続きにより 2027 年 3 月までに承認することを FERC に要請している。RGLNG Train 6 は、悪天候その他回避できない日程遅延に対応できるように、建設を完了しプロジェクト設備を業務に就けるだけの期間として、承認指令から 7 年間で要請している。第 6 系列は年間 603 万トンの LNG を生産できることとなり、第 3 棧橋は 125,000 m³ から 216,000 m³ の船舶に対応できるように設計される。このプロジェクトは RGLNG 設備への LNG 輸送船舶の寄港数を年間最大 510 に引き上げる見込みとしている。

Caturus 社は、2026 年 5 月 15 日、Commonwealth LNG プロジェクトについて、ルイジアナ州キャメロン郡での年間 950 万トン LNG 輸出設備建設への 97.5 億米ドルプロジェクトファイナンスの締結を含めて、FID (最終投資決定) をなしたことを発表した。この資金調達は出資・融資両面の投資家関心を集め、212.5 億米ドルのコミットメントを実現するに至った。長期の引き取り契約は、EQT、Glencore、Mercuria、PETRONAS、Aramco Trading との間で確保されている。フェーズ 1 開発は、2030 年

代稼働開始が見込まれている。 Commonwealth LNG ・ Caturus の上流部門操業を含む Caturus プラットフォームで 24.1%を既に有している Mubadala Energy は、 Commonwealth LNG プロジェクトのファイナンスにおいても出資参加者となっている。 Canada Pension Plan Investment Board (CPP Investments) は、 Caturus プラットフォームでの持分をここまでの投資分を含めて 31%に引き上げるため資金 12 億米ドルを拠出する。同プロジェクトにおける主要な資金面でのパートナーとしては、 EOC Partners、 BlackRock 管理下の複数のファンド・アカウント、 Ares Infrastructure Opportunities 管理下のファンド 1 件が含まれる。 Caturus はこれまでに Commonwealth LNG の EPC (エンジニアリング・調達・建設) パートナー Technip Energies 社に、主要要長期機器の発注を承認している。同 LNG 設備には Baker Hughes の LM9000 ガスタービン駆動による混合冷媒コンプレッサー 6 基、 Honeywell 主超低温熱交換器 6 基、 Solar Turbines による Titan 350 ガスタービン発電機 4 基が含まれる。 Commonwealth FID に至るまでの数週間に、 Caturus は自社の上流持分を Galvan Ranch 天然ガス資産を SM Energy から買い取ることで拡張した。

Technip Energies 社は、2026 年 5 月 15 日、 Caturus 傘下の Commonwealth LNG との、米国ルイジアナ州キャメロン郡年間 950 万トンの LNG 輸出設備についての EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約の公式推進通知 (FNTP) を受けたことを発表した。同契約の範囲は、 Technip Energies 社のモジュラー型 T.EN™ SnapLNG 方式の液化設備系列 6 本を含む。

CB&I 社は、2026 年 5 月 27 日、 Caturus 社に代行しての Technip Energies 社から、 Commonwealth LNG プロジェクトの 50,000 m³フルコンテインメントコンクリート製の LNG 貯蔵タンク 5 基のエンジニアリング・調達・組み立て・建設・プリコミッションングの一括契約受注・全面推進通知を受けたことを発表した。建設は 2026 年第 3 四半期開始見込み、機械工事完了は 2029 年を目標としている。

Commonwealth LNG 社は、2026 年 5 月 6 日、 DOE / HGE0 (米エネルギー省炭化水素・地熱エネルギー局) に、スイスのトレーダー企業 Mercuria との長期 LNG SPA (売買契約) における年間契約数量 (100 万トンから 150 万トンに増量)、価格メカニズムの一部修正、数量配分と引き渡し義務、契約延長の権利 (20 年間経過後に追加 5 年間で 3 回)、その他事務的修正などの修正事項を提出した。

WhiteWater 社は、2026 年 5 月 28 日、ルイジアナ州内での自社の Pelican パイプラインを、 Commonwealth LNG の同州キャメロン郡内液化・輸出設備にガスを供給するための新規パイプラインプロジェクト Pelican Thrasher Lateral により拡張する

ことを発表した。Pelican Thrasher Lateral は 2029 年上半期に、輸送容量日量 2.5 Bcf (25 億立方フィート) で業務開始見込み。

Delfin Midstream 社、Gunvor 社は、2026 年 5 月 6 日、Gunvor International B.V. Amsterdam ジュネーブ支店が、Delfin LNG 社との間で長期の LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。Delfin LNG がルイジアナ州沖 40 海里 (74 km) の Delfin FLNG¹ 設備で FOB (積地本船渡し) 条件で Gunvor に年間 30 万トンの LNG を 20 年間引き渡すこととなる。

米ルイジアナ州 Argent LNG 社は、2026 年 5 月 18 日、MoU (覚書) をトルコ共和国の国有天然ガス企業 BOTAŞ Boru Hatları ile Petrol Taşıma 社と締結したことを発表した。

株式会社国際協力銀行 (JBIC) は、2026 年 5 月 1 日、JBIC が出資の上、設立した米国人法人 Japan Invest 3 LLC (JI3) との間で約 630 百万米ドルを限度とする貸付契約を、4 月 17 日、締結したことを発表した。本融資は、民間金融機関との協調融資により実施するもので、協調融資総額は約 1,885 百万米ドルとしている。また、民間金融機関の融資部分には株式会社日本貿易保険 (NEXI) による保険が付されるとしている。本件は、2025 年 9 月に日米両政府より発表された戦略的投資に関する了解覚書に基づく「戦略的投資イニシアティブ」の下での第一陣プロジェクトであるガス火力発電プロジェクトへ JI3 が投資をするために必要な資金を融資するもので、本プロジェクト向け初回投資に対応するものとしている。

米 Williams 社は、2026 年 5 月 5 日、同年第 1 四半期業績報告会にて、自社として 5 件目・規模最大の需要家敷地内 (系統メーター下流) で運用される新型発電プロジェクトとしてオハイオ州 Neo プロジェクトを明らかにした。Williams はガス供給、パイプライン容量、682 MW ガス火力発電を、「質の高いハイパースケーラー取引先」向けに、12.5 年契約、2028 年後半稼働開始目標にて、提供することとしている。

東京ガス株式会社は、2026 年 5 月 8 日、100%子会社の東京ガスアメリカ社が出資する Birdsboro Power Holdings II, LLC 社の出資持分の全てを、Strategic Value Partners, LLC 社 (SVP) が運営するファンドで、Birdsboro への出資者の一社である Strategic PPAV, LLC 社に売却する持分売買契約書を締結したことを発表した。

千代田化工建設株式会社は、2026 年 5 月 21 日、米国の AI 予兆診断技術企業である Novity 社と、同社の AI 予兆診断プラットフォーム「TruPrognostics™ AI」と千代田化工の O&M (運転・保守) トータルソリューションプラットフォーム「plantOS®」を統合したソリューションの市場展開に関する戦略的パートナーシップ契約を締結した

ことを発表した。

米ホワイトハウスは、2026 年 5 月 1 日、アラスカ州の Alaska LNG プロジェクトを進展するため、同州議会下院法案第 381 号、上院法案第 280 号を指示する書簡を発行した。

米アラスカ州知事は、2026 年 5 月 4 日、ホワイトハウスが同知事の Alaska LNG 税制改革法案を支持し、同プロジェクトの国家的重要性を指摘し、実現性を改善し民間投資を引き付ける税制政策の重要性を指摘する書簡を発行した、と述べた。

Glenfarne グループ子会社 Glenfarne Alaska LNG 社、ConocoPhillips Alaska 社は、2026 年 5 月 18 日、米アラスカ州 North Slope で生産される天然ガスを Alaska LNG プロジェクトのフェーズ 1 向けに供給する前提条件付ガス販売合意を締結したことを発表した。この発表によれば、この 30 年間の合意により、Alaska LNG はフェーズ 1 FID (最終投資決定) を支えアラスカ州のエネルギー需要に対応する十分な天然ガスを供給するために十分な数量分の前提条件付合意を確保したこととなる。Alaska LNG は North Slope の 3 大生産企業 ConocoPhillips、ExxonMobil、Hilcorp Alaska、さらに Pantheon Resources 子会社 Great Bear Pantheon 社との合意を有している。

オーストラリア Santos 社は、2026 年 5 月 18 日、米アラスカ州 North Slope の Pikka フェーズ 1 開発から原油が生産され、原油のフローは計量器を通過して Pikka 販売用の原油ラインに入ったことを発表した。Santos は同プロジェクトのオペレーターとして 51%を保有、パートナー Repsol は 49%を保有している。同プロジェクトは第 3 四半期に日量 80,000 バレルの生産に到達する見込み。

JERA Americas 社の子会社 Longboard TerminalCo 社は、2026 年 5 月 15 日、ハワイ州オアフ島沖合州管轄水域内 Kalaeloa (Barbers Point)、陸上キャンベル工業パーク内の LNG 輸入基地・関連天然ガス諸設備計画について、FERC (米連邦エネルギー規制委員会) プリファイリング (事前審査) 手続き開始を申請した。LNG は、燃料油代替として、切り離し可能な FERC 管轄外 FSRU (浮体貯蔵・気化設備) を用いて、輸入される。この LNG は、船舶間移送 (STS) で FSRU に移送後、気化され単一点繋留システム (SPM) ・海底パイプラインで陸上に送られる。Longboard LNG は、2026 年 12 月までに FERC 公式申請を提出、FERC が 2028 年第 2 四半期までに Longboard LNG プロジェクトを承認する指令を発行するように要請することを見込んでおり、稼働開始目標を 2030 年第 1 四半期としている。

カナダ政府、ブリティッシュコロンビア州政府、LNG Canada は、2026 年 5 月 14 日、LNG Canada フェーズ 2 拡張の 2026 年に可能性がある FID (最終投資決定) を支

援するため最終諸項目の締結進展のため協力・共同行動の向上について合意に達した。このプロジェクトは 2025 年 9 月に首相から重要プロジェクトオフィス (MPO) に付託された。今回の合意は、2026 年 5 月 1 日に LNG Canada ジョイントベンチャー参加者 (JVP) が、2026 年末までに FID を達成するための重要な作業範囲を最終決定するために数億カナダドルの増分資金を承認したことに続くもの。この資金は、さらなるエンジニアリング、要長期品目の発注、ファーストネーションズとの契約の進展、パイプラインおよびサプライチェーンを通じた商業諸項目の最終決定、さらには LNG Canada の海洋荷卸し基地の建設作業の進展に充てられる。今回の発表によると、フェーズ 2 の排出量は世界で最も性能の高い LNG 設備より 35%低く、世界平均より 60%低いと見込まれている。

カナダ Ksi Lisims LNG 社、ドイツ SEFE Securing Energy for Europe 社は、2026 年 5 月 27 日、FOB (積地本船渡し) ・最大 20 年間、年間 100 万トンの LNG 売買についての HoA (基本合意) を締結したことを発表した。

株式会社商船三井と Seaspans Energy Ltd. は、バンクーバー港において初となる自動車船向け LNG 燃料調達の年間ターム契約を締結したことを発表した。4 月 29 日には本契約に基づく初回の LNG 燃料調達を実施した。

川崎重工業株式会社は、2026 年 4 月 22 日、Edmonton Region Hydrogen Hub (ERHH)、Alberta's Industrial Heartland Association (AIHA)、Edmonton Global と、カナダ・アルバータ州エドモントン市で開催された国際見本市「Canadian Hydrogen Convention 2026」において、液化水素サプライチェーン構築に向けた可能性検討に関する MoU (覚書) を締結したことを発表した。

Sempra 社の 2026 年 5 月 7 日の 2026 年第 1 四半期業績説明会によると、ECA LNG フェーズ 1 プロジェクトは機械的完成に至った。Gasoducto Rosarito ガスパイプラインから同設備に原料ガスが導入され、スタートアッププロセスとプレコミッショニング (試運転前) 作業が開始された。Sempra は引き続き、2026 年 6 月に LNG 生産開始、夏季に実質的な完成を目指している。完成後まもなく、長期契約に基づく販売と本格的な商業運転が開始され、LNG 収益の計上を開始する見込みである。

メキシコ Gato Negro LNG 社は、2026 年 5 月 27 日、ASEA が発行した環境許可により、プロジェクト開発に適用される全ての環境・安全要件への準拠が検証されたことを発表した。これにより、次の段階である FEED (基本設計)、商業面の体制構築、プロジェクトファイナンス (資金調達) へ進むことが可能となった。コリマ州 Manzanillo に液化プラントを建設、フェーズ 1 - 3 で年間 900 万トン容量を目指すとしている。

2026 年末までに最終投資決定 (FID) を行い、2030 年の商業運転開始 (COD) を目指している。

浮体式発電ソリューション事業者で発電船舶を所有する Karpowership は、2026 年 5 月 18 日、メキシコのユカタン半島での、同国の独立送電網操業者 CENACE とのパートナーシップによる 3 年間のプロジェクトを発表した。Karpowership は、電力供給のために 250 MW 発電船舶を LNG 基地船舶 (LNGTS) と組み合わせて提供する。

[中東]

IEF (国際エネルギーフォーラム) 事務総長は 2026 年 5 月 15 日に声明を発表し、生産者と消費者の対話における中立的なプラットフォームとして、グローバルなエネルギー安全保障とこの困難な時代におけるエネルギー市場の安定回復へのコミットメントを再確認した。

アブダビの ADNOC は、2026 年 5 月 15 日、インドのパートナーとの 2 つの戦略的協力協定の交換を発表した。ADNOC は Indian Strategic Petroleum Reserves 社との間で、原油、LNG、LPG 貯蔵、戦略貯蔵の諸機会を検討する戦略的協力協定を締結した。ADNOC のインドにおける原油貯蔵を 3000 万バレルまで引き上げる可能性が含まれる。Mangalore における既存の貯蔵および Vishakhapatnam、Chandikol における新規の貯蔵機会が含まれている。またインドの戦略石油類貯蔵の一部としてフジャイラでの原油貯蔵可能性、インドにおける LNG、LPG 貯蔵機会も検討する。ADNOC はまた、Indian Oil 社と、ADNOC Global Trading を通じて、両社の 2023 年以來の既存の LPG ターム契約を基盤として、可能性として長期 LPG SPA (売買契約) 構築も支えるように、LPG 供給・トレーディング機会を拡張することを検討する戦略的協力協定を締結した。

イタリア Edison 社は、2026 年 5 月 5 日、Adriatic LNG 基地向けの LNG 供給に影響を与えている進行中のフォースマジュールに関してカタール QatarEnergy より最新の通知を受けたことを発表した。これまでのコミュニケーションで通知されていた 10 カargoに加えて、7 月初旬までのイタリアへの引き渡し予定の追加 2 カargoに関するものである。Edison はここまでに 8 カargo、1bcm 相当は代替された、と報告した。Edison は QatarEnergy と、イタリア向け年間 6.4 bcm (470 万トン) の供給に関する長期契約を有する。同契約は 2009 年開始、25 年間である。これまでの最後のカタールからの引き渡しは、2026 年 3 月末だった。2026 年第 1 四半期、Edison は 1.6 bcm (118 万トン) の LNG をカタールから受け入れた。Edison は、特に何の対応策も織り込まない場合に、今後の分として QatarEnergy から、年間契約数量の 3 分の 1 程度の

引き渡し減少になるとみている。

イタリア Edison 社は、2026 年 5 月 26 日、カタール QatarEnergy 社から、7 月から 8 月中旬 Adriatic LNG 基地引き渡し予定の追加 5 カーゴの LNG を対象にフォースマジュール通知の延長の通知を受け取ったことを発表した。これまでに 17 カーゴ、2.2 bcm (22 億 m³) 分がフォースマジュール対象となっている。

Technip Energies N.V. は、2026 年 4 月 30 日、カタール QatarEnergy による、損傷を受けた第 4、第 6 系列の修繕活動を支援するキャパシティを有すると述べた。Technip Energies は NFE、NFS、NFW のチームとは区分して専門修繕チームを有する、としている。

ExxonMobil 社の 2026 年 5 月 1 日の同年第 1 四半期業績報告会によれば、海峡が開放に戻れば、カタール Ras Laffan LNG 設備における現在市場に出ていない容量の大きな部分が比較的短期間で復帰すると見込んでいる。LNG 系列を稼働に戻すためにクールダウンしなければならない。これに数週間を要する。ExxonMobil は、損傷を受けた 2 系列に関して QatarEnergy とともに取り組まなくてはならない。QatarEnergy は修繕期間を 3 - 5 年と述べたが両社はこの期間の短い方にするために検討している。

Shell は、2026 年 5 月 7 日、カタールでは、Pearl GTL の第 2 系列が損傷したと述べた。Shell は現時点で、同系列を復旧させるには 1 年かかると見積もっている。この発言によると、現時点の見積もりで、修理費用は 5 億ドルを大幅に下回ると見込まれている。この発言によると、Pearl GTL 第 1 系列と、Shell が QatarEnergies LNG N4 JV を通じて持分がある LNG 系列は、ホルムズ海峡を通じた製品輸送が可能であれば、稼働準備が整っている。Shell は QatarEnergies LNG N4 JV の 30%を所有している。同社は中東紛争と計画メンテナンスの影響で、LNG 液化量について第 1 四半期の 790 万トンから第 2 四半期には 680 - 740 万トンの範囲に減少すると予想している。

Excelerate Energy の 2026 年 5 月 7 日の同年第 1 四半期業績プレスリリースによると、Excelerate は 3 月、カタール QatarEnergy 社から長期 LNG 供給契約に関するフォースマジュール (不可抗力) 通知を受領した。Excelerate は、バングラデシュ Petrobangla に対して、同社との長期供給契約に基づき、同様の通知を発行した。これらの取引はバック・トゥ・バック方式で構成されており、納入義務は供給コミットメントに連動し、契約上の不可抗力条項の裏付けを受けている。

Excelerate Energy の 2026 年 5 月 7 日の同年第 1 四半期業績プレスリリースによると、Excelerate は 2025 年 10 月、イラク電力省傘下の企業と、同国初の LNG 輸入基地開発に関する確定版商業契約を締結した。この統合プロジェクトには、気化

業務と LNG 供給に関する延長オプション付 5 年間契約と、1 日当たり 0.25 bcf の最低契約引き取り量が含まれる。中東紛争の影響で棧橋強化と固定基地インフラストラクチャ建設が遅れており、従来発表されていた 2026 年第 3 四半期の操業開始は最早見込めない。同プロジェクトの稼働開始は 2027 年と見込まれる。イラクにおける慢性的な電力不足と国内ガス処理容量の限界により、同プロジェクトを支える長期的なファンダメンタルズは変わっていないとしている。

Excelerate Energy の 2026 年 5 月 7 日の同年第 1 四半期業績プレスリリースによると、Excelerate は 2026 年 5 月にヨルダン National Electric Power Company (NEPCO) と 9 ヶ月間の定期備船契約を締結し、Excelerate Acadia を同国アカバにある既存の LNG 輸入基地に配備することとなった。Excelerate Acadia は 2026 年半ばに操業を開始する予定である。NEPCO は、5 月 6 日、Excelerate Energy との間で、アカバの Sheikh Sabah LNG 基地用 FSRU 賃貸契約を締結した、と述べた。現在の FSRU (Energos Force) の契約が、2026 年での終了に近付いている。

[アフリカ]

ConocoPhillips 社は、2026 年 4 月 30 日、同年第 1 四半期業績報告で、赤道ギニア Equatorial Guinea LNG プロジェクトが、第三者オペレーション生産のガスの LNG 加工契約を締結し、当該 LNG 設備の寿命を 2030 年代に延長している、と述べた。

TotalEnergies 社の 2026 年 4 月 29 日、同年第 1 四半期業績報告会によると、モザンビーク Mozambique LNG プロジェクトの最初の LNG 生産は 2029 年までに見込まれる。同プロジェクトは建設停止中の 4 年間に良好な機器の確保のみならず、エンジニアリング・調達に進捗に注力した。同プロジェクトの進捗は 3 月末時点で 42% である。

Kosmos Energy 社の 2026 年 5 月 5 日、同年第 1 四半期業績報告会によると、モーリタニア・セネガルの GTA プロジェクトは第 1 四半期、公称 LNG 生産容量年間換算 270 万トンを超える年間換算 285 万トン相当を生産した。

2026 年 5 月 4 日の媒体報道によると、LNG 輸送船舶 Arctic Metagaz は、地中海を 2 ヶ月間漂流後、リビア沖合で投錨された。同船舶は 3 月にマルタ近くでドローン攻撃により制御を失い、船員達が同船舶を放棄する危険な状況に陥った。曳航する試みが何度か失敗した後、リビア当局がベンガジ近くで同船舶を確保した。ガスカーゴの多くが既に漏洩したかもしれないが、当局者達は依然として残り分を安全に引き抜く計画を検討している。

南アフリカの TNPA (Transnet National Ports Authority) は、2026 年 5 月 28 日、

Tamasa Energy 社と Strategic Fuel Fund の合弁会社である Ukwanda LNG と、Ngqura 港に陸上 LNG 気化設備を開発するための 25 年間の基地オペレーター契約を締結したことを発表した。同プロジェクトは、暫定的な浮体設備を設置する。範囲に含まれるのは、ガスを供給するための恒久的な陸上インフラストラクチャの建設である。2035 年までに操業開始することを目標としている。

[欧州・周辺地域]

ドイツ Daimler Truck、MB Energy、川崎重工業株式会社は、2026 年 5 月 11 日、ハンブルク港を經由して欧州への液化水素供給網を構築するための共同開発協定 (JDA) を締結したと発表した。目標は、2030 年代初頭までに液化水素および水素の供給の商業運転開始 (COD) を達成することとしている。

欧州の大規模グリーン水素プロジェクト開発企業にして Trafigura 完全子会社 MorGen Energy は、2026 年 5 月 7 日、デンマーク Esbjerg での Njordkraft グリーン水素プロジェクトの将来の操業を支援するために、EU 革新基金資金による欧州水素銀行オークションにより、最大 4.2275 億ユーロ補助金の条件付き決定を受けたことを発表した。Njordkraft 開発の最初の段階は、300 MW 電解設備容量で、段階的に 1 GW まで増強するポテンシャルがある。ドイツ、欧州大陸の工業用顧客に供給すべく、EU の非生物起源再生可能燃料 (RFNBO) 基準に準拠した再生可能水素を生産することが期待される。本プロジェクトは、Esbjerg とハンブルク近郊の Heidenau を結ぶ国境を越える水素パイプラインであるデンマークおよびドイツの水素バックボーンシステムに直接接続する設計で、エネルギー集約型製造業などの引き取り者を標的としている。同プロジェクトは再生可能水素年間 45,500 トンの生産を目標とする。

ノルウェー Equinor 社は、2026 年 5 月 14 日、自国北部 Hammerfest LNG 設備から、インド肥料製造企業 Deepak Fertilisers And Petrochemicals 社 (DFPCL) 向け長期契約に基づく最初のカーゴを引き渡したことを発表した。

ノルウェー Awilco LNG 社は、2026 年 5 月 13 日、"ALNG ASA" への改称を提案した。同社は 2013 年建造の 156,000 m³型 TFDE メンブレン LNG 輸送船舶 WilForce、WilPride を所有している。

フィンランド Gasum 社は、2026 年 5 月 21 日、自社の海運顧客に販売された全ガス量のうちバイオメタン (バイオ LNG) の割合が 2024 年の 0.8%から 2025 年には 12.3%に増加したと発表した。この発表によると、この進展の大きな要因のひとつは、2025 年に施行された FuelEU 海事規制であるとのこと。FuelEU Maritime は、今後 25

年間で燃料のカーボン原単位を最大 80%まで段階的削減を船舶に義務付けている。

イベリア半島ガス市場の運営企業 MIBGAS は、2026 年 5 月 7 日、DXT Commodities 社との間で、後者が「大量の」スポット LNG 供給をスペイン LNG バーチャルハブ (TVB) で利用可能とする契約を締結したことを発表した。スペインの LNG スポット市場の参加と流動性を向上する新策である。

2026 年 4 月 27 日の報道によると、スペイン Enagás 社は、自国初の水素注入容量配分手続きを完了した。

APV (スペインのバレンシア港湾当局) は、2026 年 5 月 20 日、バレンシア、サグント、ガンディア港湾でのタンカーによる船舶への LNG 燃料供給サービスの 2 件の申請を承認した。これらの許可は 6 年間有効で、SHELL WESTERN LNG 社、AXPO IBERIA 社がそれぞれ受領した。これよりも前に PENINSULA PETROLEUM にライセンスが与えられていた。

イタリア Snam 社は、2026 年 5 月 26 日、Ravenna 沖の FSRU 型 LNG 輸入基地の気化容量の複数年分の配分について、関心表明手続きを開始した。応募期限は 6 月 15 日となる。

ギリシャ Dioriga Gas 社は、2026 年 5 月 8 日、自社の FSRU (浮体貯蔵・気化設備) 計画アップデートを公表した。計画している同基地は、同国南部で 21 - 24 TWh (139 - 159 万トン) の LNG 輸入、追加 177,000 m³ (+45%) 貯蔵容量をもたらすと期待される。プロジェクトチームは海洋周りのライセンス、第三者アクセスの適用除外、他企業の参加検討交渉等に取り組んでいる。

Mercuria Energy は、2026 年 5 月 25 日、Motor Oil Hellas (MOH) 社との間で、ギリシャ Saronic ガルフでの Dioriga Gas FSRU (浮体貯蔵・気化設備) プロジェクトとの関連での長期協力に向けての MOU (覚書) を締結したことを発表した。

Capital Clean Energy Carriers 社は、2026 年 5 月 7 日、同年第 1 四半期に造船会社との間で現在建造中の LNG 輸送船舶 3 隻の引き渡し前倒しに合意した、と述べた。Archimidis は 2026 年 7 月から 6 月、Agamemnon は 2027 年 1 月から 2026 年 6 月 Alcaios I は 2026 年 9 月から 7 月に前倒しとしている。

韓国のハンファオーシャン社は、2026 年 5 月 11 日、LNG 輸送船舶 1 隻建造受注を明らかにした。2029 年 6 月 15 日期限で欧州の海運企業に引き渡す見込み。ハンファオーシャン社は、2026 年 5 月 29 日、LNG 輸送船舶 1 隻建造受注を発表した。2029 年 9 月 28 日納期で欧州の海運企業に引き渡すこととなる、としている。

リトアニア KN Energies 社は、2026 年 5 月 29 日、ポーランド GAZ-SYSTEM 社よ

り、グダニスク湾の FSRU (浮体貯蔵・気化設備) プロジェクトのコマーシャル上・操業上のアドバイザー業務を提供するために選定されたことを発表した。同 FSRU は 2028 年稼働開始で計画されている。2026 年 3 月、GAZ-SYSTEM は同 FSRU 基地の気化容量を増加する目的で FSRU 2 オープンシーズン (容量利用者の公募手続き) を開始した。

リトアニア KN Energies 社は、2026 年 5 月 27 日、KN Energies がクライペダに計画している二酸化炭素 (CO₂) 積替ターミナルを、政府が国家的に重要なプロジェクトとして認定したと発表した。計画中のターミナルは、2022 年に設立された CCS Baltic Consortium が開発している国境を越えた CO₂回収、輸送、恒久的な貯蔵チェーンの一部となる。このプロジェクトは、二酸化炭素の回収とクライペダ港の CO₂積み替えターミナルへの輸送を含み、そこから北海の恒久的な貯蔵サイトへ輸送される。このプロジェクトの商業運転は 2032 年に開始される予定。2024 年、欧州委員会は CCS Baltic Consortium に共通関心プロジェクト (PCI) の地位を与えた。

カタール QatarEnergy 社は、2026 年 5 月 21 日、エジプト政府および ExxonMobil とエジプトの既存のガス・LNG 輸出設備を通じてキプロスで発見されたガスの開発および商業化の可能性を検討する MoU (覚書) を締結したことを発表した。

英国政府は、2026 年 5 月 19 日、一定条件により、Sakhalin-2 LNG 設備または Yamal LNG 設備からの LNG について第三国への供給または引き渡し、第三国から別の第三国への供給または引き渡し、この LNG 供給または引き渡しに関わる金融、仲介業務を認める一般通商ライセンスを発行した。

[南米]

カタール QatarEnergy 社は、2026 年 5 月 20 日、Shell 子会社 BG International 社からウルグアイ沖の 3 探査鉱区の参加権を取得したことを発表した。QatarEnergy は「OFF-4」鉱区の 18%を取得、Shell は 32%、APA Corporation (オペレーター) は残りの 50%を保持した。QatarEnergy は OFF-2 鉱区の 30%を取得し、これは Shell が 70%を持ちオペレーターである。OFF-7 鉱区では QatarEnergy が 30%を取得、Shell (オペレーター) が 40%を維持し、Chevron が 30%を持っている。

コロンビア Ecopetrol 社は、2026 年 5 月 25 日、自社と、Frontera Energy 社が所有する Puerto Bahía Port Society (SSPB) が、カリブ海側の LNG 気化プロジェクト実行段階に入るため必要な規制・環境承認を確保したことを発表した。国家インフラストラクチャ機関 (ANI) は、SSPB 港湾管理権の小規模な修正に関して、賛成意見を出し

た。これによりカルタヘナの海洋基地の既存・操業中のインフラストラクチャを利用し
ての LNG 受入・輸入事業開発の承認となる。国家環境認可機関 (ANLA) は、同プロジ
ェクト実施に必要な微細な環境上の変更を承認した。この 2 件の承認により、同プロジ
ェクトは実施段階に入り、SSPB は 2026 年 12 月の稼働開始に向けロジスティックス業
務の契約、FSRU (浮体貯蔵・気化設備) 契約締結、インフラストラクチャ建設・統合の
プロセスを進めることとなる。Ecopetrol は当初日量最大 300 GBTU (年間 212 万ト
ン) 供給できることとなる。Puerto Bahía を通じて輸入されるガスの商業上の
プロセスは、5 月 15 日、諸契約の締結により終了した。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp